別紙1　参考様式

南風原町人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
南風原町	山川・神里	令和3年6月21日	令和2年3月31日

1　対象地区の現状

①地区内の耕地面積	46.2	ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	40.4	ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	34.9	ha
ⅰ　うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	8.9	ha
ⅱ　うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	4.5	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	7.8	ha
（備考）		

2　対象地区の課題

【地域特性】
①本地区は町の南部に位置する地域であり、山川、神里両地区は土地改良事業により整備されている。
②耕作状況として野菜類（南風原かぼちゃ含む）が最も多く、次にさとうきび、果樹（マンゴー含む）が多い。

【現状】
①70歳以上の耕作者は34.9haで全体数の75.5%にあたり、この地区においては高齢化が顕著であり、後継者不足の状況であるため、新しい担い手の確保が必要である。
②今後中心経営体がひき受ける意向のある耕作面積が7.8haであり、効率的・有効的な農地利用を促進するためのマッチングを行う必要がある。

3　対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・今後経営を断念する高齢者が増える地域だと想定され、遊休農地も発生しているが、新たな経営体（中心経営体及び新規就農者）へ農地集積を図っていく。
・山川、神里両地区については土地改良整備済みのため、中心経営体へ農地集積し、耕作放棄地が発生しないように取り組んでいく。
・本地区については中心経営体育成が必要なため、今後も営農者の認定農業者や認定新規就農者の認定支援を積極的に図っていく。

4　3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

・農業委員会が実施する定期的な営農意向調査等を利用し、地主と担い手のマッチングをはかる。
・農地中間管理機構との連携により、中心経営体への貸付を進めていく。
・農業委員会、JA等の農業機関と連携し、講習会等の実施により、担い手及び担い手候補の営農技術の向上をはかる。